

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	有限会社 グッドライフ		
事業所名	グループホーム アウル		
所在地	北海道伊達市舟岡町337-1番地		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成12月

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々での向上心が高い。またチームでの向上心も負けないくらい強い。
 利用者の様子・状態の変化を日頃から観察し、報告、記録が詳細に記されている。
 職員全体での申し送り、意見交換、共有が出来る雰囲気作りをしており、ご家族と共に利用者が安心、安全で、穏やかな生活が継続出来るよう支援している。
 不安のある中、訪問看護師体制が整い気持ち的に安心し専門職から診た判断に助けられている。
 今後も入居者の状態変化を見落とす事無く情報を共有し、皆で連携しチームとして支援していきたい。又、職員の研修、講義の受講など積極的に参加し知識を高め、反映に繋げて行きたい。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173700246&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をベースとして考えケアに取り組めるよう、行っている。途中入社した職員にも理念を共有し、実践できるよう携帯用理念カードを配布している。又玄関、各ユニットに掲示して自己確認できるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、地域の活動等には極力参加し交流を出来るよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や、ホームに来られた方への対応、自治会へ広報誌を回覧し内容として時節性の高い病気予防などの掲載を担当職員により行われている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、情報交換や意見、質問をいただき、それに対し報告や返答を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月のホームの広報誌を担当者に渡し、その月の出来事に目を通して頂けるよう取り組んでいる。市担当職員と電話での連絡などを取り、ホームの情報を共有している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット毎にマニュアルを設置、拘束をしないケアを心がけケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットにマニュアルとしていつでも閲覧できるようにしてある、また、外部研修を活用し職員のが知識や重要性を身につけ、防止に繋げられる様行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要性は低いが、対応出来る様関係機関に相談等行える体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書説明時や解約時の手続きを行う際、ゆっくりと時間を取り疑問点などを聞き出せるよう配慮している。又、電話対応や面会時等も理解や納得されるよう図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書内へ苦情相談窓口の住所、電話番号を記載している。又、その資料も玄関に持ち帰れるよう設置している。玄関には苦情相談ボックスを設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの状況や環境も考え、出来る限り、仕事のしやすい環境を整えられる様配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内の研修だけではなく、本人が学びたい事を学びたいと思った時に外部研修へ出られる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者によりスタッフの外部研修予定を立てている。又、月の1回のユニット会議や計画を立てた全体会議により情報や勉強会を行っている。勉強会を繰り返すことにより年数がたったスタッフにも振り返りができ、良い環境になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連絡会へ参加し同業者と勉強会や交流を図っている。他事業所から立ち寄れるよう行っている。運営者も講師として勉強会などへ参加している。また、別の地域より講師を呼び、他の事業所や地域住民へ声を掛け、質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やケアマネージャーを通し、本人の状態確認も含め、利用申し込みされた後、管理者、スタッフにて本人を主体として話し合いの場を作り努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や電話があった場合、又こちらから連絡した場合にも家族からの不安やこれまでの相談などをゆっくり聞き、少しでも気持ちが落ち着けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望なども聞き入れ、状況に合わせて社会資源の利用や、紹介を行い速やかに実行できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においてお互いが助け合え、楽しみを分かち合える関係になれるよう過ごし、孤独にならぬよう支え合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の中で起きている本人の言動や行動など、面会や家族会等で家族と共に笑い話など出来る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人との付き合いが続けられるよう面会時は面会簿に住所、氏名、連絡先を記入していただきいつでも連絡を取れるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の一人ひとりの生活を第一に考えているが、できる限り関わりが持てるよう食事をともしたり、隣ユニットへ顔を出し馴染めるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も面会や家族会等へ誘うなどより良い付き合いを行えるよう努めている。その際に相談等があれば随時承っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの些細な言動でもスタッフ間で話し合い、意見を出し合い、汲み取り実現できるよう出来る限りの配慮を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申し込み時点でライフヒストリーを本人、若しくは家族などに記入していただき、入居が決定した場合にもセンター方式シートに本人の情報を記入していただき、スタッフ間での入居者の状況を把握している。又、入居前の面会時にはケアマネージャーなどから情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別アセスメントシートに記入し本人の状況を総合的に把握、又毎月の会議にて個別に日々の生活の言動や行動をスタッフ間で情報交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中本人の言動、家族からの要望、提携医療機関からの指示などを取り入れスタッフ間での情報などを基に作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別アセスメントシートや処方箋、検査結果等を個人ファイルにファイリングし、日常において常にスタッフ間での情報交換等を都度行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の言動、家族面会時や電話対応時の要望などスタッフ間で情報交換を図り状況にあった支援を出来るよう行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	非常災害時の訓練や行方不明時の対応等、必要とされるフォーマル、インフォーマル関わらず、活用できる様、体制を整えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、管理者と本人、ご家族と話し合いを持ち通院状況を把握し、受診できるよう柔軟に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等へ伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として訪問看護ステーションと契約し、週に1回ホームへ来ていただき、入居者の健康管理を行って頂いている。その他、24時間オンコール状態、緊急時の電話相談、訪問等の連携支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	リロケーションダメージを最小限に軽減する為、ご家族と相談し医療機関への情報提供、又スタッフが勤務時間内に面会へ行き状態の変化を聞き、退院等に備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者からの方針の説明、スタッフ、主治医間での情報交換、重度化や終末期の方針をその都度話し合い、その入居者にあった支援の目標、方向性を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットにマニュアルを用意し、いつでも目を通せるよう設置、又、年1度程度普通救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回程度自衛消防活動を実施し、消防署職員を呼び消防活動に対し、指示、助言をいただいている。又、運営推進会議でも実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの心身の状態に合わせた排泄に対しての声掛けなどスタッフ間での確認を常に行っている。また、記録等は、個人ファイルにこまめに管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の表情や言動を察知しそれに対し説明を行い、本人が自ら決められ、意欲低下にならず、納得できるよう行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を重視し、入浴時間や食事方法、食事場所の希望に合わせて日々の生活を過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好む色や形に配慮し、心地よく生活して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせての食事の提供や、誕生日など行事がある場合はいつもとは違うものを提供している。又、入居者の個々の状態に合わせてリビング内では調理の音や香りが楽しめ、自然と調理場に入れるよう広く場所をとり、片付けなどを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認が必要な入居者にはケアプランに載せ、毎食チェックを行っている。食事量の少ない場合は栄養補助食品の提供。水分量に関しては全入居者アセスメントシートにチェックしている。又、一人ひとりの好み、習慣に応じて支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア	起床時、就寝前のブラッシング以外にも、食後うがいが必要な方には綿棒に紅茶を染み込ませ口腔ケアを実施。また可能の方にはイソジンを使用し支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立して排泄できるよう、排泄時間、間隔、水分量の確認。又ホットパックや腹部マッサージ、水の音を流すなど工夫し努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を考え食物繊維の多いものを提供、又、牛乳やその他乳製品を視野に入れ提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まった時間に希望がある入居者に対し、本人のタイミングで入浴できるよう声掛けを行っている。又入居者の状態、気分を考慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡できず日中傾眠が見られる場合などは短時間でも良眠出来るよう臥床への声掛け、ソファで休息していただくなど、入居者本人の状態に合わせて努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントファイルへ処方箋を添付し理解している。又、起床時、朝食、昼食、夕食後、就寝時分の薬を日付を記載し、袋に分けていれ配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの楽しみや本人の趣味を考慮し、他入居者と楽しめるよう機会作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、健康状態を考慮し、こちらからの外出の声掛け、又本人の希望にて急な散歩等の要望に答えられるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に対し持参していないと不安が生じる入居者に対し、契約者、ご家族などにその都度説明、相談し、決められた金額を所持できるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に電話連絡可能時間を聞き、入居者本人からの要望があれば可能な時間内での会話をしていただけよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は木目を基調とした暖かい雰囲気、トイレ、浴室はリビングより死角になっており羞恥心に配慮している。又装飾品は季節に応じて交換、カレンダーには手作りのものを使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にはリビングより死角になっているユーティリティスペースを活用し居室以外に一人になれる居場所がある。又人の声は聞いていたいが、人の輪には入りたくない等の気分に合わせ配慮している居場所もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の入居の状況に合わせ家族と相談し使い慣れた物、もしくは新たに購入したものを利用していただき入居者が過ごしやすいよう工夫し、努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレ通所時居室から出て、失見当が起こらないようトイレ戸に誘導等を使用し人間の持つ明順応を利用するなど工夫している。		